

宮川 晴香

MIYAKAWA Haruka



Ghostly inside / Ghostly outside

塗料、樟

Ghostly inside／Ghostly outside

本作は「幽か」がテーマである。

「かすか」という言葉は「微」と「幽」、2つの漢字で表現することができる。

本作で用いている「幽か」は英訳すると”Ghostly”

奥深く、静かで感覚を研ぎ澄ませなければ感じるこのできないものに目を向けた。

私は木彫作品をユウレイやゴーストと重ねながら制作をしている。

作品の元となる材は、地面に根をはり枝や葉が生い茂っていた頃が必ずあり、木目や節などの影響を受けながら彫ってゆく。

そこにユウレイやゴーストの生前の名残を持ち、変幻自在に漂うすがたを想起する。

本作は木に対する2つのアプローチからなる。

1つは「おくりだす」こと。

木の内部に眠るものを求め、明らかにするために穴を開けた姿からは、その過程で落ちていった部分が幽静に浮かび上がる。

もう一つは「封をする」こと。

木の外側、アウトラインを確かめるためになぞり、塗り固めた姿の奥には、触れることのできない部分が幽閉されている。

確かな行為を通じて、幽かができる。

私の他に誰もいないアトリエで、扉がキィ…と鈍い音を立てながら開く。

「誰か来たのか」とそちらに目をやる。しかし、誰も来ない。扉を閉め制作に戻る。

また扉が開く。そちらに目をやる。誰も来ない。扉を閉める。

扉を開ける正体は一体何なのか。

見ているときに限って扉は開かない。

結局、風が扉を開けていたというよくあることだったが、

そこに私は幽かを感じずにはいられなかった。

本作はそんな幽かをとらえようとして、できあがったユウレイやゴーストなのである。